

# 東京大学における コンテンツ獲得戦略

工学系研究科学位論文の  
登録・公開を中心に

東京大学情報基盤センター 小山憲司



## 目次

- 東京大学学術機関リポジトリの概要
- これまでの取り組み
- コンテンツ獲得戦略
- 工学系研究科における学位論文の電子的公開の制度化
- 今後の課題



## 東京大学学術機関リポジトリの概要



- UT Repository
- 2006年4月1日公開
- 登録コンテンツ数 1,610件  
(2006年5月14日現在)
  - 学術雑誌論文 38件
  - 学位論文 121件
  - 紀要 1,449件
  - 図書、図書の一部 1件
  - 教育資料 1件

<http://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/>

## 東京大学学術機関リポジトリの概要2



- ソフトウェア
  - SUSE Linux
  - DSpace1.3.2日本語化パッケージ等
- ハードウェア
  - HP Proliant DL380G4
  - 2GBメモリー
  - 1TBディスク
  - バックアップ装置等



## これまでの取り組み

- 2004年
  - NIIのIRP(学術機関リポジトリ構築ソフトウェア実装実験プロジェクト)に参加、EPrints2.3.3を利用して試行実験開始。
  - 図書館システム更新を控え、「東京大学における情報戦略について」を策定、この中で情報発信支援を実現するシステムとして、機関リポジトリを位置づける。
- 2005年
  - NIIのCSI事業に参加、機関リポジトリシステムの立ち上げと公開に向けて準備を開始。
  - 附属図書館研究開発室の下に、東京大学学術機関リポジトリ・プロジェクトを設置。



## コンテンツ獲得戦略

- 初期登録
  - 協力を得やすい教員へのアプローチ
  - 電子化されたコンテンツを既に持っている(公開している)部局へのアプローチ
  - コンテンツの電子化に興味を持っている部局へのアプローチ
  - NIIからの電子データの提供
- 継続的収集・登録
  - 学位論文の電子的公開の制度化

## コンテンツ獲得戦略の具体例1



- 協力を得やすい教員へのアプローチ
  - 総長(前附属図書館長)
  - 情報担当副学長
  - 附属図書館長
  - 情報基盤センター長 など

## コンテンツ獲得戦略の具体例2



- 電子化されたコンテンツを既に持っている(公開している)部局へのアプローチ
  - 数理科学研究科
    - Journal of Mathematical Sciences, the University of Tokyo
  - 経済学研究科
    - 日本経済国際共同研究センターDiscussion Papers (準備中)

## コンテンツ獲得戦略の具体例3



- コンテンツの電子化に興味を持っている部局へのアプローチ
  - 工学系研究科電気系専攻
    - 過去の学位論文
    - 明治期の卒業論文(電子データあり)
  - 東洋文化研究所
    - 東洋文化研究所紀要

## コンテンツ獲得戦略の具体例4



- NIIからの電子データの提供
  - 紀要電子化プロジェクトによる電子データの提供
    - 教育学系研究科・教育学部の紀要
      - 東京大学大学院教育学研究科紀要
      - 東京大学大学院教育学研究科教育行政学研究室紀要
      - 生涯学習・社会教育学研究
      - 学校臨床研究
      - ネットワーク：東京大学大学院教育学研究科附属学校臨床総合教育研究センター年報
  - 科学研究費補助金データベース(KAKEN)からの電子データの提供

## コンテンツ獲得戦略の具体例5



- 学位論文の電子的公開の制度化
  - 工学系研究科および情報理工学系研究科
    - 電気系専攻
    - 研究科全体
  - 新領域創成科学研究科(試験運用)

## 学位論文の電子的公開の制度化



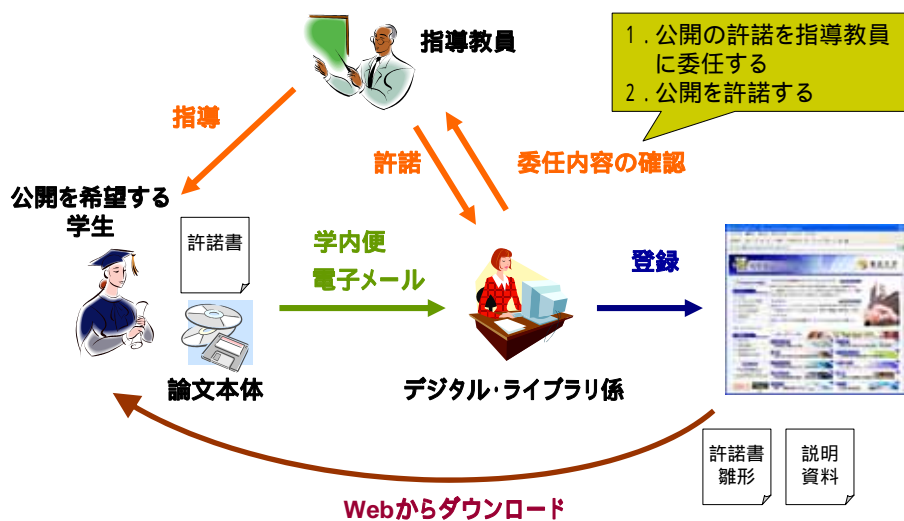
- 工学系研究科および情報理工学系研究科(以下、工学系研究科)
  - 工学系研究科全体
  - 電気系2専攻および情報理工学系研究科電子情報学専攻(以下、電気系専攻)
- 新領域創成科学研究科(試験運用)

## 工学系研究科全体



- 西郷附属図書館長による力添え。
- 研究科図書委員会を通じて、参加を呼びかけ。
- 専攻ごとに参加の可否を決定。
  - 参加(予定含む)14、不参加1、保留・未定2、その他2、回答なし4
  - 参加のうち、2005年度から実施は5専攻

## 学位論文の電子的公開のイメージ



## 制度化にあたって考慮した点



- 柔軟な制度の構築
  - 公開の判断は、学生本人が行う。
  - 公開の判断を、指導教員に委任することもできる。
  - 公開時期を個々に設定することができる。
- 手続きの簡素化
  - 許諾書をWebに用意し、個々にダウンロードする。
  - 許諾書および論文ファイルは、学内便、電子メールなど、さまざまな方法で提出できる。
- 著作権処理
  - 学位論文の登録にあたって、著作権の確認を行う。
  - 学外からの問い合わせに対して、附属図書館が一次窓口となって対応する。

## 電気系専攻



- 岡部前情報基盤センター長による力添え。
- 過去の学位論文の電子化と並行して、**先行的に**その制度的枠組みを模索。
  - 学位論文提出時に許諾書を提出
  - 公開許諾は、基本的に指導教員に委任
  - 公開時期は、原則として提出から半年後
  - 論文ファイルの提出は、DSpaceの登録機能を試験的に利用



## 工学系研究科における学位論文の 電子的公開の制度化(まとめ)



研究科	対象	許諾手続き	電子データの提出
工学系研究科 全体	2005年度提出分 以降	学位審査後、許諾書と電子データをデジタル・ライブラリ係に提出(学内便、電子メールなど)	
電気系専攻	2005年度提出分 以降	学位申請時に、許諾書を教務担当に提出	DSpaceの登録機能
	過去の博士論文	電子メール、郵送などにより確認	図書室所蔵資料を電子化

## 今後の課題



- 学内他部局へのアプローチ
  - 教員との協力体制の確立
- 著作権処理
- メタデータのみでの研究成果の登録・公開
- コンテンツの保存機能の拡大
  - 公開範囲の取り扱い

ご清聴ありがとうございました

